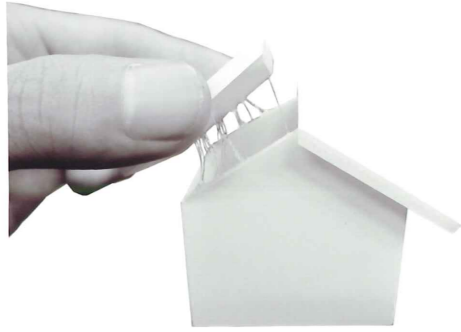
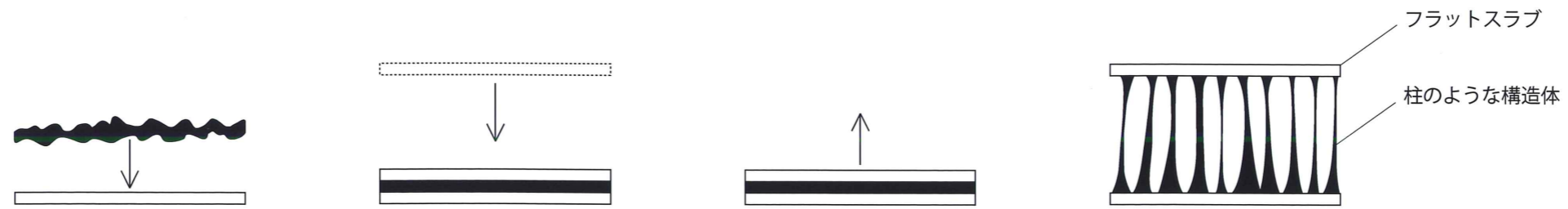


■発想の原点



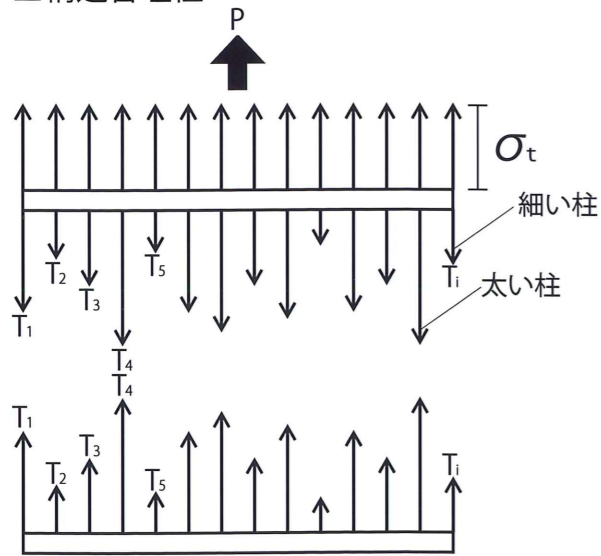
普段、建築の学生が模型製作の際に使うスチのりの粘性から形態創生のアイデアを得た。

■粘性の性質を持つ透明個体材による形態創生



まず一枚のスラブに、粘性の性質を持つ透明個体材を重ねる。さらにもう一枚のスラブを重ねて上に引き上げる。粘性が形態を創り出し、その形態のまま硬化することで柱のような構造体となる。形態の決定要因は粘性の度合と引き上げるタイミングである。

■構造合理性



$$\sigma_t = \frac{P}{A}$$

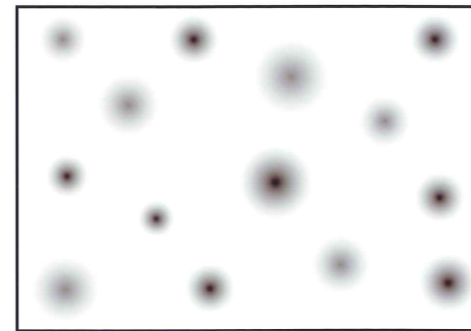
$$\sum T_i = P$$

荷重を合理的に地盤（下層）に伝達可能である。

■シームレスな構造体

粘性の性質を持つ透明個体材による構造体は、柱と床がシームレスに繋がった形態となる。従来の形態創生の方法では、建築の三つの要素である空間・形態・構造においてどれかの要素が先行しており、その為に他の要素が形成されている。しかし、この粘性による形態創生の方法によって空間—形態—構造が同時に建ち現われ、建築の三つの要素が等価に扱われることとなる。

■不均質な平面



偶然性と不均質性を得た平面を創出する。

■高層化することの可能性



■自然の生成原理



粘性という素材に内在する力によって生み出された形態は、まるで自然の生成原理によってできる洞窟や林のような存在感を醸す。このような自然の生成原理によってできる形態は、偶然性と不均質性がありながら何か自然界の規則性がある。その風景は初めて見たのにもかかわらず、どこかで見たようなノスタルジックな風景となる。粘性が創り出す形態はそんな自然の生成原理のような魅力を持っている。